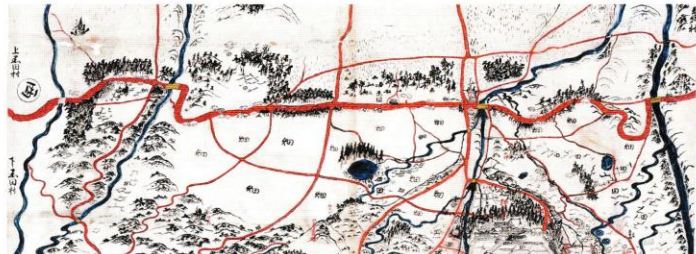


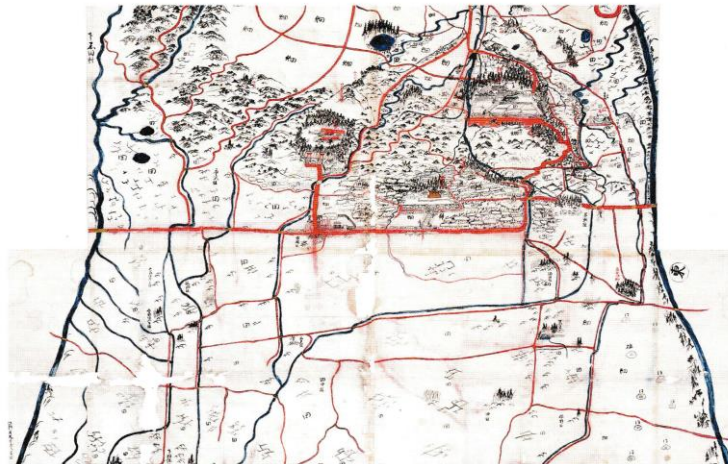
座光寺の道路の変遷

縄文時代からの歩く道はありました。奈良時代には都と東北地方を結ぶ道「東山道」が座光寺を通っていました。江戸時代までには村中に多くの道がひろがっています。

荷物を運び方も人の力・馬の利用・車の発達・自動車の普及で道路が広められました。どのような移り変わりがあるか、調べてみようと思います。



旧伊那街道の絵図 1862年(文久2年)



如来寺周辺・恒川・共和周辺の旧道絵図 1862年(文久2年)

昔のみち

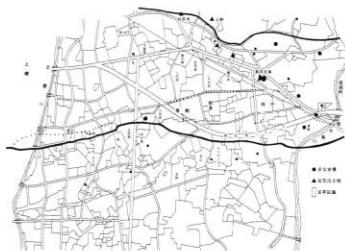
古代(古墳・奈良・平安時代)には、天皇家を中心にした中央集権国家が成立して、地方官制(地方の行政区画)は、国・郡・里・戸とされた。もおおむね整備され、そのため都を中心とする道路が必要でした。伊那郡は東山道が通っていました。道は、大小にかかわらず人間が住むには、生活に必要な道は必ずどこにでもあったはずですが、詳しいことはわかりません。

東山道はどんな「みち」ですか

東山道は、都と地方を結ぶ官道(主要道路)の一つで、美濃の国(岐阜県)から神坂峠(阿智村)を越え、伊那谷(座光寺)を通って諏訪・碓氷峠を越え、群馬県から東北地方まで結ぶ重要な道路でした。

座光寺のどこを通ったか

原地籍を通る上手線、恒川あたりを通る下手線の2説があって、古代伊那郡衙のある下段を通る下手線が有力ですが、決定するまでには今後の検証が必要です。皆さんで調べて探してみてください。



恒川地籍の東山道推定コース

伊那街道について教えて

1600年(慶長5年)関ヶ原の戦いで勝利し、天下の実権を握った徳川家康は、江戸を中心にした全国的な交通網の整備を行い、東海道・中山道・奥州街道・甲州街道・日光街道は、江戸へ出入りする主要道として五街道と名づけられました。

伊那街道は、中山道の塩尻宿を基点にして、伊那谷の各宿場を通り、根羽宿から名古屋・豊橋へ通ずる脇往還でした。

座光寺はどこを通っていたか

座光寺の伊那街道は、現在の上手道(県道飯島・飯田線)とほとんど同じところを通っていました。

並木は街道に風情を添え旅人を楽しませ、夏は日陰をつくり休息しやすいようにし、冬は積雪を防ぎました。一里塚は、それぞれの目的の目印でした。

座光寺の街道には、松の林がありました。南大島川弓矢沢の近くを北並木、中央の屋敷の並んでいるところを中並木、宮崎に入ったところに宮崎御林がありました。それぞれ手入れがされて、実に見事な松並木であったろうと想像されます。残念なことに現在はなくなってしまいました。

一里塚は、江戸を中心にしていたので、高森町出原にある一里塚から1里という印でした。平成元年史学会が一里塚跡の碑を立てました。

座光寺村内の旧道はどこにあるの

1852年(文久2年)に描かれた村内の絵図が残っているので、道がどこにあったかが分かります。恒川地籍を中心に見ますと、田の字のような所もあります。よくみるとこの旧道に沿って屋敷があります。

明治時代以降道路はどのように改修されたか

明治になって、人力車や荷車が登場すると、旧伊那街道(三州街道)の改修や旧電西線の改修が行われ、1923年(大正12年)伊那電気鉄道が元善光寺駅まで開通し、それに伴い1925年(大正14年)に駅から如来寺前まで駅前道路が新設されました。(街路樹として桜が植えられました。現在はありません)

1936年(昭和11年)松尾線(昭和街道・現在の国道153号線へつながる道路)が中市場三叉路から新設されています。

村内の里道の改修はどうなっていたか

荷車が普及してくると、道路の幅を広めなければなりません。1902年(明治35年)頃から里道の改修計画が立てられ、10線道路と呼んで主要道路の改修が進められています。この10線道路というのは、地区内の縦横の道路10本のことです。荷車や馬車が通れるように計画し、1925年(大正14年)の駅前道路の新設、1934年(昭和9年)の座光寺〜松尾線の新設工事がありました。

大太平洋戦争後の急激な変化は、1961年(昭和36年)豪雨による被害が大きく、その復旧工事に伴って様相が一変

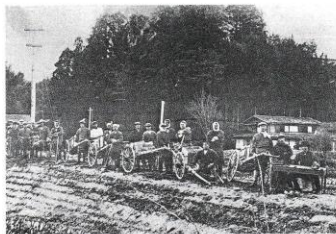
しました。この頃から自動車の普及が一層高まり、幅の広い道路が必要になってきました。

車 社会の幕開け

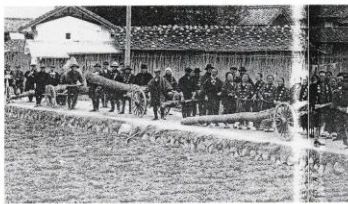
- ◆1966年（昭和41年）阿島橋が完成した。（有料でした）
1974年（昭和49年）無料化になりました。
- ◆1975年（昭和50年）中央自動車道が、岐阜県中津川から駒ヶ根まで供用開始になりました。
- ◆1984年（昭和59年）国道153号線座光寺バイパスが開通しました。
- ◆1992年（平成4年）下段土地基盤整備事業に伴い、農免道路が開通しました。
- ◆2001年（平成13年）広城農道（フルーツライン）が開通しました。
- ◆同平成13年市道万才線が整備されました。

物資の移動手段はどんな様子だったか

古代から江戸時代までは馬や人力でした。
明治から現在までの様子を写真を紹介します。



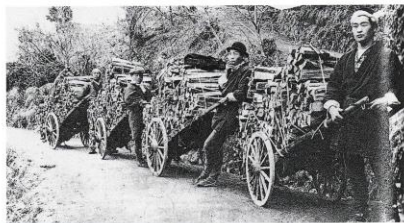
喬木線改修時の大八車（大正5年）



材木を運ぶ大八車と念仏講の人々（大正15年）



婦人が背負う背板



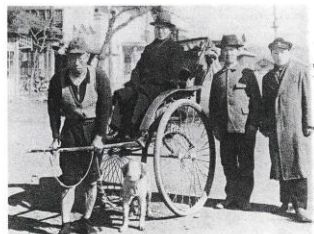
座光寺の製糸工場へ薪を運ぶ人（豊丘村、昭和初年）



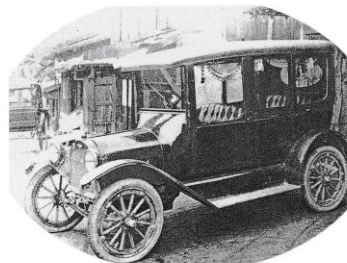
小川路峠の荷馬（昭和28年）



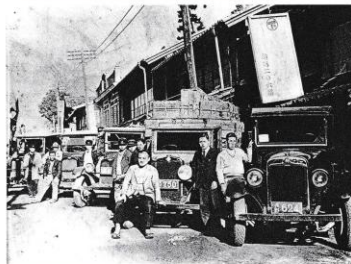
飯田市内の荷馬車（昭和26年頃）



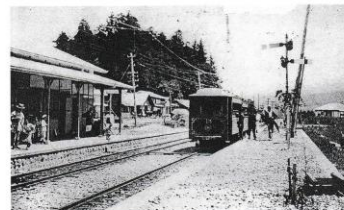
この人力車はよく座光寺へも来ました。



飯田へ初めて来た自動車（明治44年）



飯田本町のいろいろな自動車（昭和5年）



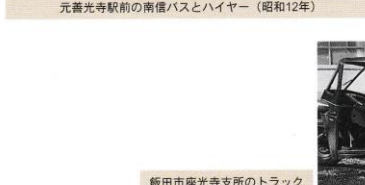
昭和初年の元善光寺駅と電車



元善光寺駅前の南信バスとハイヤー（昭和12年）



中市場通りの車の列（昭和50年）



飯田市座光寺支所のトラック（昭和32年頃）



（片桐丈夫）